

新 生

令和七年三月 十日印刷
令和七年三月 二十日発行

新生第七十七巻 第一号



東北新生園入所者自治会

新 生

令和七年三月 十日印刷
令和七年三月 二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男6名 女17名 計23名
職員定員数	130名（令和6年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第七十七巻 第一号

童謡歌手・歌のお姉さん『坂入姉妹』

— 令和6年11月14日 —



収穫祭行事に東京よりお越しいただきました。
童謡クイズを交えながら7曲の童謡を息の合
あった歌声で披露。
右がお姉さん、左が妹さん。

ープログラムー



1. みかんの花咲く丘
2. 四季の童謡
3. わらべうたメドレー
4. 森の水車
5. 学生時代
6. 上を向いて歩こう
7. ふるさと



園内日誌

令和六年 十月～十二月

《十一月》

十二～十四日 収穫祭（抽選会）

童謡歌手歌のお姉さん『坂入姉妹』
文化祭

《十二月》

二日 クリスマスイルミネーション点灯式

【謝寄贈図書欄】

令和六年 十月～十二月（敬称略）

多磨	東京都多磨全生園
菊池	熊本県菊池恵楓園
愛楓	岡山県邑久光明園
青生	岡山県長島愛生園
青松	香川県大島青松園
始良	鹿児島県星塚敬愛園
すべてのいのちを守る教会をめざして	
東京都日本カトリック	
司教協議会	

令和7年3月10日 印刷
令和7年3月20日 発行

発
編
印

行
集
刷

東北新生園楓会(自治会)
楓会文化部
川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十七巻第一号……………目次

退官園長大いに語る……………	園長横田隆……………(2)
「退職のご挨拶」……………	事務長□野広志……………(11)
六十歳の節目として……………	看護師大内美代子……………(18)
随筆「久しぶりの定義山の旅」……………	齋藤照雄……………(20)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者佐々木洋一……………(21)
短歌……………	選者皆川二郎……………(24)
俳句……………	選者小松温美……………(26)
川柳……………	選者栗石隆子……………(28)
還暦を迎えました……………	看護師佐藤智子……………(31)
「人権のつどい」に参加して感じたこと……………	事務助手遊佐三枝子……………(33)
栄養だより……………	栄養班……………(35)
四コマ漫画「別れ話」「引き戸」……………	太田凜……………(36)
園内日誌・謝寄贈図書……………	

表紙…「福寿草」

退官園長大いに語る

横田 隆

今回の退官園長の原稿はインタビュー形式としました。自治会職員の質問に横田園長が答えるという形式にしました。それぞれにテーマ毎にお話を伺いました。

皆さん、あまりご存じないでしょうから、生い立ちから教えていただきますか？

そうですね、あまり話したことがなかったですね。私は昭和三十一年に鎌倉に生まれました。今は鎌倉は観光地で賑わっています。その頃は静かなところでした。鎌倉の大仏がありますが、その隣に住んでいました。いつも鎌倉生まれの鎌倉育ちと言っていました。

たが、実は本当に生まれたのは福島県福島市なんです。母親の実家が福島で、福島市の森合町というところです。子供の頃はよくお袋の実家に休みの時に遊びに行っていました。で、今でも新幹線で福島駅を通るときには懐かしい気持ちになり、子供の頃のことを思い出します。信夫山が見えると、展望台に行つたなあと。母親の実家は産婦人科の開業医で、建物や庭も広がった。ちょうど幼稚園の頃の私が冒険するのによい環境でした。母親の父、つまり私の祖父は大変厳しい人だったようですが、私はそんなことは全く意に介さず、祖父に対しては傍若無人に振る舞い、ゲームしていても、お祖父ちゃん、それは反

則！などと叱責していたようで、周りはいつ祖父が激怒して一喝するか・怯えていたそうです。私に対しては優しい祖父でした。

小学生の頃はいかがでしたか。

小学校は御成小学校と言うところに入学しました。ここは元、明治天皇の別邸で、天皇陛下が、お成りしたというので、御成小学校と名付けられました。おらかな小学校で、いじめとかもなかったように記憶しています。

中学高校はいかがでしたか？

中学は受験して中高一貫のカトリックの学校に行きました。イエズス会が運営している学校で、教師に外国人が多く、色々な國から来ていましたが、全員が神父で立派な人が多かった印象があります。校長はドイツから来

た神父で、これがまた信念の人という感じ。校長授業というのがたまにあります。そこで出来が悪いと一学年落とされるのです。その一瞬で落第はないよね。子供心にも大変理不尽な仕儀だと思った次第です。後年、卒業してから校長にそのことを質すと、それは思いやりだと。出来ないまま上に行かせることが無慈悲だと言うことでしたが、考え方に大きく隔たりがあると感じたところでした。

中学三年の時、父親が急死しました。これは突然のことで、本当に驚きました。自宅で倒れてそのままでした。後の母親の場合も急死であり、両親、医療を受けていません。本当に情けない思いをしたものです。サラリーマンだった父親がいなくなつたのですから、その途端、一家は家計のことで行き詰まります。あの時は大変でした。葬式の後、中学の校長から呼びだしを受けましたが、「大変だったな、人はね、いつ呼ばれるかわからないから。」神様からいつ天国に呼ばれる

か・・・ということですが。言いにくそうにしていたので、こちらからどうしましたか？と尋ねると、家計の方はどうなっているのか？今後は？と問われたので、まずは蓄えがあるもので、それで何とか切り抜きたいと答えました。すると校長は「もしよければこれからの授業料は免除する。あなたが社会に出て稼いだらそれで返してもらったらい」とのこと。これは子供心にしみた言葉でした。本当にありがたく、「大恩」と言ってもよいと、今でもその時の校長の言葉は忘れられません。

大学は仙台に出て来られたのですか？

そうです。昭和五〇年入学で五十六年卒業です。まあ、色々学びましたね。名物教授も多かったし。厳しい教授もいましたが、根底に学生に対する思いやり、愛情があったと記憶しています。

府立医科大学に転任してしまい、そこから人生の歯車がおかしなことになったのです。

結局、秋田大学の教授の転任についてくことになり、京都府立医科大学に入局しました。これは大変でした。すべてが違う！文化が全く違います。言葉も通じないし。教授についてきた若い医師ということで、元からいる医師も警戒していたようです。引越してから半年は荷物をほどこませんでした。いつでもやめて退散しようという気持ちでした。

こちらがハリネズミになっていると、あちらも身構える、それがわかってからは、出来るだけ京都府立医科大学の医局員と交わるように努力して、今でも交流がある医師が何人もいるのはありがたいことです。特に後年、京都府立医科大学の外科の教授になったドクターは、私が大学時代に一緒に研究していた方で、日本消化器外科学会も主催された極めて有能な方なので、今でも連絡をしているの

医師になってからは？

研修病院は秋田県の大曲市の仙北組合総合病院というところで学びました。そこには今でもお世話になっている仙台に開業されている先生がおられ、糸結びの基本から手術のやり方を伝授していただきました。今はどうかわかりませんが、そのころは「見て覚える」、「技術は盗む」という徒弟制度であり、一日中病院にいました。ずっと病院にいらると、急患の処置も覚えるし、手術症例が来れば、「次はお前がやれ！」ということになり、症例数や経験も増えます。今は働き方改革で、そのようなことは流行らないのでしょうが、これからのような医師が出てくるのか、ちよつと不安に思っています。

仙北での三年研修終わり、仙北には秋田大学から若い医師が何人も来ていたので、秋田の雰囲気は惹かれ、秋田大学に入局しました。ところが、秋田大学の教授がすぐに京都

はうれしいところです。

留学体験

京都府立医科大にいたときに、大学よりどこかに留学せよとの指令がありました。どこという具体的な指示もなく、自分で探せという状況でした。それまでは大学ではモノクローナル抗体（現在抗体療法をしている基礎的な研究です）の研究をしており、それに関しては自信もあり、論文も多く出版してありました。その時にはアメリカの国立衛生研究所の研究者の論文をよく参考にしており、留学するならここかと思っていました。それは国立衛生研究所のジェフリー・シユローム博士の研究所でした。そこに手紙で連絡を取って、今と違ってメールもラインもない時代です。手紙で問い合わせたところ、すぐに返事が来て、来てほしいとの連絡が来ました。それは意外でしたが、評価されたことがうれし

かったというのもあります。

それでアメリカに三年の留学生生活をするこ
とになったのです。

アメリカは楽しかったなあ。ストレスない
し、楽しいことばかり。自由な感じで、日本
人の平均の仕事をするればすごく評価されま
す。他の外国人は働かないからね。普通の仕
事をすれば評価されます。だから後進も臆す
ることなく、どんどん外国に行ってほしいと
思っています。

二年の予定でしたが、もう一年いたいと思
い、上司のところに行きに行ったところ、
「なに、もう更新の手続きはしているよ」と
のことで、本当にありがたいと思ったところ
でした。

楽しい留学生活でしたが、すべてが楽し
かったことではありません。留学中、アメリ
カで長男が亡くなったのです。これは突然で
した。本当にどうしたらよいか・人生での

りもあり、二回ほど、訪問して久保会長にも
ご挨拶したところでした。

当園に赴任されたのは？

仙台医療センターに七年おりましたが、そ
の当時の副院長で外科部長の先生から新生園
に行ってくれないかとの要請で、行くことに
決めました。ところが、前任の園長が突然辞
めてしまい、これには往生しました。医師は
いない、どうしたらよいか？仙台医療セン
ターからの医師派遣も停止されました。これ
にはまいりましたね。ただ、東北大学の第一
外科の医局と消化器病学医局が全面的に応援
してくれたので、何とか乗り切ることが出来
ました。

赴任して困ったことはありましたか？

園長になってからすぐに上皇后陛下が新生

危機でした。だけど、アメリカの人たちの思
いやり、心配りで乗り切ることが出来たとの
思いをしています。アメリカで業績を上げて
論文を書いた人は何人もいるでしょうが、子
供の葬式までした経験者はいないと思ってい
ます。いない方がいいよね。

その後、宮城県に戻って来られたのですね？

色々あって、教授が代わったこともあり、
宮城県、東北大学に戻りました。一からのス
タートでしたが、東北大学の仕事は楽しかつ
た。それは本当です。若かったしね。東北大
学に戻らなければ、新生園の私もないはず
で、よい選択だと今でも思っています。いわ
き共立病院、五戸総合病院を経て、国立仙台
病院に赴任しました。ここで東北新生園のこ
とを関与することになり、その後、東北厚生
局の医療指導官をしたことで、当園との関わ

園の話を知りたいとのこと、本省から皇居に
来てほしいとの要請がありました。これは非
常に困りましたし、どうしたらよいか？と悩
みました。美智子妃殿下が新生園のことを考
えて下さっているというのは本当にありがた
いことであり、なんとか御意に沿いたいと考
えたところです。

東京駅で待っている間、本当に不安でし
た。宮内庁からの迎えが来てくれ、私のところ
に一直線に来てくれました。どうして私だ
と？わかったのか・それは今でもわかりま
せんが、顔写真でも送られていたのでしょうか。
それで皇居に向かいました。途中四力所
の検問があり、それぞれ皇宮警察が警備して
いました。皇居に到着しました。侍従の方が
迎えていただきましたが、その方の案内で、
美智子様の居住に案内していただきました。

そこに美智子様が立っておられました。本
当にその周りの雰囲気は穏やかで慈愛に満ち
たものでした。

美智子様へのご進講はどうしようかと色々考えましたが、その当時はタブレットもないし、そうだし紙芝居にしようと思ったのです。園内を色々写真を撮り、美智子様がお出でになったらどのようにご紹介しようかというのを再現したのです。美智子様はご興味を持ってお聞きになり、写真を手に取りさらにご質問をしていただきました。写真の角にお手が当たるといけないと思い、何度かご注意を申し上げたところです。最初の予定は四〇分でしたが、途中の休憩を経て、美智子様からはもう少し話を聞きたいとのことで、一時間半になったのはありがたいことでした。その中で、第一メールセンターの工事中の写真をお見せしたところ、一般の人はどこに入るの？とのご下問あり。最初は理解出来ませんでした。一般の人を入れなければ最終的な差別の解消にならないのでは？とのことでした。衝撃的な言葉であることをよく記憶しています。

皇居に直接お伺いして、上皇后陛下との会見がありました。美智子様はお優しく、真綿で包むような応対であり、私の緊張はどこぞに行ったのでした。この経験が、その後の行幸啓につながったと思っています。



園長が就任している間に色々ありました。 東日本大震災はどうでしたか？

ちょうどあの日、金曜日だったんだよね。二時半に時計を見た記憶があります。膨大な書類に目を通しながら、週末はどうしようかな・なんてのどかなことを考えていました。いきなり揺れ出して、地響きがすごかったです。今でも道路沿いの園長室ではトラックなどの轟音などで身構える事も多いです。映画館の空調の音も気になる。一種のトラウマなのでしょね。

すぐに病棟とセンターに行き、被害がそれほどないことを確認。福祉室を本部にして対応したところです。その後、物流の停止、交通の停止、通信の停止など、本当に大変な状況でした。水はある。井戸水は偉大です。米は岩手から手に入った。これは大きい。米と水、塩、味噌があれば餓死はしない。そのくらいの考えでした。

本省からは連絡がついた五日目、他の療養所に避難するべきとの指令がありました。久保会長に相談すると、『籠城』とのことでした。どこにもいかん！これはホッとしたところでしたが、食料集めと物品集め、ガソリン、灯油のことはずっと頭にある問題でした。

その時に助けてくれたのは、まずは自衛隊。私が福祉室にいたときに、自衛隊から電話あり、何か困っていることはないか？とのこと、ガソリンがありません！軽油もあります！と切望したところ、それはあるよ、少しなら回せるよとのこと。早速お願いし、自衛隊のジープとトラックが来たのを迎えし、ガソリン、軽油をいただきました。三人の隊員が来てくれましたが、三人ともにお礼を言い、握手をしたところです。軍手を脱いで・・というところでしたが、私は軍手ごと握手しました。自衛隊の車の日の丸をこれほど誇らしく思ったことはありません。

それから寛仁親王殿下もお見舞いに来ていただきました。あのころ、ご自身がとんでもなく悪い状況であり、手術するか緩和医療にするかとの瀬戸際だったとのこと。これは後から知ったところですが、そんなことをおくびにも出さず、〝入所者は元気かい？〟と



言って下さった殿下には本当に頭が下がります。職員もよくやってくれました。職員の中には家族が津波で行方不明になっている方も多く、それでも当直、深夜勤、準夜勤をしてくれました。息子さんが不明で、深夜を涙を堪えてやっていた職員を知っています。ハンセン病療養所の入所者を守るのは職員なのです。わたしはこれを強く確信しているところであり、今後も入所者を守ってくれるのは職員との認識は間違いないと考えています。

平成十六年から二〇年になりました。新生園の入所者、自治会の久保会長、職員があまりによくして下さいるので、二〇年過ぎすことができました。これは心からお礼を申し上げます。と思います。

どうぞ皆様、お元気で過ごして下さい。

「退職のご挨拶」

事務長 口野 広 志

昭和三十九年生まれの私は、令和五年四月一日施行の「国家公務員法等の一部を改正する法律」により定年が引き上げられたので、あと二年間東北新生園にお世話になるつもりでしたが、諸般の事情により令和七年三月三十一日をもって、十四年間の自由気ままな放浪の旅という単身赴任生活に終止符を打つこととなりました。また、高校卒業後の昭和五十八年四月に国立病院・療養所に採用されましたので、通算四十二年間の国立病院・療養所勤務を終えることになります。正直なところ自分が「定年退職？」「六十歳？」と、ど

こか他人事のように、今でも信じがたいですが、しかしながら現実なんだと自分に言い聞かせつつ、この原稿を書いております。

令和五年四月一日付けで国立療養所東北新生園に着任し、あつという間の二年間でした。この間、無事に勤務出来ましたこと、ひとえに東北新生園の職員の皆様、自治会長はじめ入所者の皆様のご支援があったからこそであり、この場をお借りして感謝申し上げます。私は、この二年間で東北新生園に何か新しい風を吹き込むことが出来たでしょうか？また、新生園や自治会に何か貢献出来たでしょうか？そこが唯一の気がかりとなるところです。さて、この四十二年間を振り返りますと衝撃的なことが多々ありました。やはり、高校卒業後初めて社会に出て受けたインパクトは大きくて、今も記憶に残っているものを何点かご紹介いたします。

一点目、採用された施設は国立療養所西札幌病院（現国立病院機構北海道医療センター）でした。私は、会計班補給係として採用され、やはり新人なので勤務開始の八時三十分より早めの出勤を心がけてましたが、既にその時間帯には年配の方が出勤していて、班の全員の机や電話の拭き掃除をしていたことです。（皆が朝から気持ちよく仕事が出来るようにとのことで、自発的にやられておりました。）

二点目、国家公務員なのに「残業があるんだ」ということです。これは後にも記述しますが、自分の業務能力云々は抜きにしても、やはりその日の業務が終わらなければ残業になるのは当たり前としても、当時、会計班ではゴールデンウィーク明けに経理計画なるものを提出しなければならず、そのための作業はどうしてもゴールデンウィークに出勤して

やらなければならないということがありました。（公務員なので基本的に残業はないものと思っておりました。）

三点目、野球が盛んだったことです。自分は野球小僧でしたので全く苦ではなかったのですが、勤務時間終了の十七時を過ぎて仕事をしていると「野球の練習はどうしたんだ？」と言われたくらいです。なので、残業があってもそれは野球の練習の後にとというのが暗黙の了解でした。また、北海道では当時十五施設ほどありましたので、地域毎に年一、二回野球大会が開催されておりました。野球大会後に行われていた懇親会での他施設の職員との交流も今となってはある意味重要なものだったんだなと思います。

四点目、宿直です。当時は外部委託という概念がなかったと思われます。行政職（一）と行政職（二）または医療職（二）との二名

体制で行われており、電話対応、患者面会対応、施設内定時巡回や急患受付を行っておりました。高校卒業したての自分にとっては、この宿直がある意味別世界というか非日常というか、行（二）、医（二）の他職種の方と仕事や趣味（野球や車）、プライベートな話し等で盛り上がるわけです。皆、私より先輩でしたが同年代が多かったので楽しい思い出が多いです。当時はご年配の方々の宿直も請け負っており、コンスタントに月八回は病院に寝泊まりしてました。また、宿直時の晩ご飯も楽しみのひとつで、一〇〇%出前でしかも大盛りを注文しますから六十キロの体重が一年で七十キロに増量、不思議と身体は慣れるもので、それがいつしか普通になり今では九十キロ弱までに増量しております。一時期、三桁の太台に乘りましたがこれは流石にマズいと…。知識及び経験は増量せず贅肉だ

けが増量してしまった四十二年間となりました。

五点目、医療係での診療報酬請求事務です。これは国公立・民間を問わず「病院」という特殊な機関ならではのでしょう。当時は採用後十年くらいで係長試験の資格ができたかと思います。私は補給係しか経験がなかったもので、病院収入の根幹である医事も経験しないとのこととで配置換え（医事係（外来））になりました。そこで、待ち受けていたのが、日々の外来患者の診療収入（計算や窓口一部負担収納）業務と基金及び国保への診療報酬請求事務です。当時は、医事コンピュータがある訳もなく、手計算で行います。外部委託の概念もないので医事職員のみでの対応です。診療報酬請求明細書の提出期限は基金は診療月の翌月七日、国保は十日で遅らせることは絶対に出来ませんし、遅れ

れば二ヶ月後の診療費が国に入ってこないことになるからです。国立病院機構の病院でいえば、病院の通帳にキャッシュが入って来ず、職員へ給料が払えない（物件費が払えない等含む）という事態になり、資金ショートを起こすことになります。この診療報酬明細書、所謂レセプトですが、作業の流れとして、二枚複写になっていて一枚目がレセプト、二枚目が計算カードになっています。日々の診療内容を計算カードに記入し、月末二十五日あたりから、作業を行い、当該月の各外来患者の診療点数を確定させて、それを翌月初旬あたりから一枚目のレセプトに転記していきます。この作業を毎月八〇〇件ほど時間外（約十八時以降から早くて二十二時過ぎ）、かつ、月末二十五日から翌月の十日（その間土日なし）まで行いますので、新しいボールペン一本のインクが一回の請求事務

でなくなってしまうこともありました。先にも書きましたが、国家公務員ですが当たり前のように残業があります。というか、病院（医事）では日中は入院・外来患者の診療受付、支払い業務等を行いますので、どうしても診療報酬請求事務は別働隊がない限り時間外に行わざるを得ない環境でしたので、そういう意味では特殊性があるのかなと思います。今、この業務を外部委託なしの職員のみで、かつ、医事コンなしの手書きでとなった場合、やはりブラック企業となるのでしょうか？当時は、「ブラック」「ブラック企業」なんて言葉はなく、「二十四時間戦えますか（リゲイン）」が主流でしたし、当たり前前の事だと身体に染みついてしまっていました。現在は、医事業務委託の導入や働き方改革でいろいろな業務内容や職場環境が改善されてきておりますので、時代の流れを感じつ

つ羨ましく思う自分もおります。

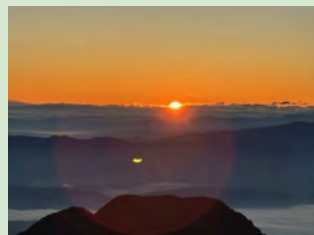
ここまで、衝撃的な事柄として五点ほどあげさせていただきましたが、この他にもまだまだありますが止め処なくありますので、これで打ち切りたいと思います。ただ、言えることは国立療養所西札幌病院を皮切りに国立療養所東北新生園で十四施設となりましたが、楽しいこと辛いこと、行き先々での周りの方々との何気ない会話やフォローがあったからこそ、今となっては全てが良い思い出となっていることです。

当園についてですが、令和五年五月八日に新型コロナウイルス感染症が「五類」に移行になった事に伴い、それまで感染対策上開催を見送っていた「国立療養所東北新生園の将来構想を進める会」を登米市事務局との打ち合わせを経て、令和六年五月に当園にて開催しております。第七回の場においては、過去

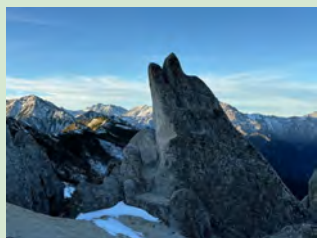
の開催内容の情報共有と令和六年三月に完成しました慰霊塔（三重の塔）の見学を実施しております。将来構想における施設整備等のハード面については、予算執行の関係で不可なものもありますが、それ以外につきましては慰霊塔の完成をもってほぼ整備済みとなりました。今後の課題として、「歴史的建造物の保存」、要は、当園の歴史的建造物として何を後世に残していくのか等について、登米市を含めた将来構想を進める会において意思統一を諮り、医政局及び健康局と進めていくこととなります。その作業に直接関わるものが出来なく、少々残念な気持ちです。

平成十五年以前は国立病院・療養所・ハンセン病療養所は厚生労働省の管轄でしたが、北海道にはハンセン病療養所の施設がなく、かつ、人事異動も北海道管内での異動でしたので、ハンセン病療養所の名称と過去におい

燕岳（長野県にある標高2,763mの山。）



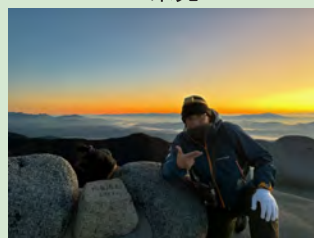
ご来光



名物「イルカ岩」

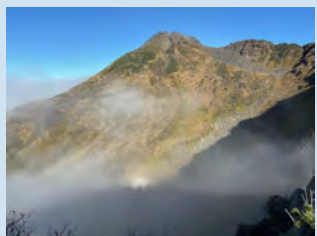


山頂



←これは、山荘＝「燕山荘」にある有名な「山男」石像。

鳥海山（山形県と秋田県に跨がる標高2,236mの活火山。）



↑これは、鳥海山の外輪を回ったときに出的ブロッケン現象です。自分の影がガスに映る現象です。

（撮影：事務長 口野広志）

て伝染病のため隔離されていた施設だったとの認識しかありませんでした。平成十六年四月に中央省庁等改革の一環として、ハンセン病療養所を除く国立病院・療養所は独立行政法人国立病院機構として設立され、併せて、北海道と東北を合わせた北海道東北ブロックとしての管轄エリアも設立されました。それ以降、今まで北海道管内だけだった人事異動が、北海道東北エリアとして、東北地方の施設にも人事異動するようになりました。ハンセン病療養所は独立行政法人には移行せず、そのまま厚生労働省直轄の機関として運営されておりますが、引き続き、独立行政法人国立病院機構と人事交流を重ねて来ているところです。

お恥ずかしい話、令和五年四月に東北新生園に着任し、初めてハンセン病療養所の過去（隔離政策、偏見や差別等）の歴史を知りま

した。自分は何が出来るのかを考えた場合、将来構想を進める会の推進もそうですが、受け身ではなく、こちらから発信、啓発活動をするということも必要と思い、登米市へのPRや当園のホームページの動画撮影等、手がけてみましたが、効果は如何に・・・。

こうして国立病院・療養所勤務の締めくくりをハンセン病療養所で過ごせたことは、ハンセン病療養所の過去の歴史等を改めて勉強することが出来、自分にとって貴重な時間となりました。

六十歳の節目として

看護師 大内 美代子

私は、平成十四年四月と平成十五年八月にも病休代替での勤務をさせていただきました。

その後、平成六年九月に非常勤、平成八年二月に常勤として採用になりました。

今回六十歳の節目としての原稿依頼があり、六十歳となると定年退職を迎えるのですが、私は二年後に定年を迎えます。

最初の勤務場所は、治療棟の外科勤務でした。入所者の方々と会話しながら、足浴して外科処置をしたり、衛生材料として、包帯巻き・鼻つめ作成・検査介助や、当時は手術する入所者さんもいて介助したことを覚えてい

ます。不自由者棟では、泉センタ―に配属となり、入所者の方と輪投げや季節の歌を唄ったりしました。月毎のポスター作成では、入所者の方からアドバイスを頂きながら作成した事や、歌体操では、青い山脈の曲に合わせて体操の内容の声かけをしたり、また私が他へ勤務移動になってからも、私の声が録音されているテープで「今でも歌体操を行っていますよ」と聞かされた時は、恥ずかしさと役に立つことができて良かったと思いました。

不自由者バス旅行・運動会・夏祭り・花火大会・文化祭・カラオケ大会・新年会・豆まき・ひな祭り・七夕・収穫祭・トランプ・ロコモ体操・コロコロポットン・ボーリング等のレクリエーション活動や年間行事等、たくさん入所者の皆様の活気ある姿が思い出され、たくさんふれあうことが出来て、楽しいひとときを過ごせたことに、感動を覚えております。

平成二十三年三月十一日の東日本大震災の時は、私は準夜勤務で電話も繋がらなかったため安否確認が出来ず、私が職場に着いた時に、入所者の皆様、職員の皆様から拍手で迎えられ、ものすごく感動した事を覚えています。その時、私の地域では、断水が長期間であり、入所者の方から「水汲んでいがいん。」と水をペットボトルに入れて頂いた事とても感謝しております。

入所者さんと散歩に行きながら、山菜採りをしたり、料理を教えてもらったり、会話しながら作品作りを一緒にに行い、楽しみ合う事ができました。入所者の皆様に感謝しております。

これからも、皆様からの沢山の教えと、これまでの感謝の気持ちを念頭に入れて、入所者の皆様一人ひとりの思いに寄り添った関わり方で接していきたいと思えます。



「久しぶりの定義山の旅」

齋藤 照雄

「里帰りとか、どこか行きたいところがあつたら希望してください」とセンターの師長さんに知らせが来た。師長さんから最初は「里帰りはどうですか」と聞かれたが、家は遠いので断った。

「定義山に行きたいのですが」と師長に言ったら「上司と相談してみます」と返答され、程なくオツケーが出た。

同行者はヘルパー二人、ナース一人、ドライパー一人と、全員男性であつた。私の多目的トイレ介助のためである。

お土産品が私の目に浮かんできた。

しばし休憩をした後、観光をしようと言われ、車椅子をヘルパーに押してもらい五重塔へ。ヘルパーは初めての定義山だから、五重塔を見て素晴らしい建築物だと言つて褒めた。

そして、みんなが待っているワゴン車へ。みんなが揃つたところで帰路についた。

宮城インターから築館インターを降り、セブンイレブンで牛肉弁当を買つて、間もなく職員二人とすれ違った。共に手を振った。私は目が見えないから、黙つたまま車に揺られ新生園の門をくぐり、我が寮に。

早速、ヘルパー二人手分けをしてメーブル一階の入園者や色々な所へお土産品を配ってもらい、配り終えたとの知らせを聞いたところで、私の久しぶりの定義山の旅は終わった。

出発の準備として、トイレ介助の方法をリハビリの先生より乗降を指導され、それをマスターし、いよいよ出発。

築館インター、宮城インター、大倉ダムを通り、定義山へ到着。

私のトイレ介助をヘルパー二人とナースで済ませる。

そして、お土産売り場で予定通り買い物をした。ヘルパー二人とドライパーに先に昼食を済ませてもらい、私の焼きおにぎりを買ってきてもらう。車中で食事を摂るためインスリンを打つたり、食事の介助をナースにしてみらつた。

みんなで定義山名物の焼きおにぎりを食べると「美味しかった」と言われ、「そうですか」と言つたところで一休み。

私は、五十年ぶりの定義山なので、焼きおにぎり、三角揚げ、大きなまんじゅうなどの



詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《もしも隣にあなたが居たなら》

芽 生

もしも隣にあなたが居たなら
この青い空の美しさを
二人で語り合っただろう

もしも隣にあなたが居たなら
どこまでも続く青い海の果てしなさに

心細さなど感じなかっただろう

夢や希望を語り合ったり
何気ない景色の美しさ

ふとしたときに感じた美味しい料理の感想

もしもあなたが隣に居たなら

私は、いつだって幸せだと感じられた

離れている時間も距離も

いつだって関係なしに

私は、あなたを思い

あなたに伝えたい感動や喜びを

言葉にして伝える方法を模索する

もしもあなたが傍に居たなら

ずっと二人で

ゆつくり年をかさねて行きたかった

振り返れば短いように感じた時間も
実に長い時間を過ごしてきたと気付いた夜
隣に感じた
かすかなあなたの温もりに涙がこぼれた

あなたと居た時間は
あなたと感じた幸せは
あなたが私に残した
大切な宝物

しさ／どこまでも続く海／美味しい料理／大切な
宝物」など、一工夫してほしい。悪いわけではな
いが、表現として典型的と言える。

【選 評】

《もしも隣にあなたが居たなら》

芽 生

あなたという存在の大きさ、愛しさがよく出て
いて好感が持てる。

率直性が持ち味の作者であるが、「青い空の美



短歌

皆川二郎選

◇入選◇

もの慣れぬ手つき腰つき晒しつつ春の
味覚のタケノコ探す 芽生

【選評】

春の味覚の筍を探すのに、慣れない手つきと腰つきを隠すこともなく、一生懸命に探している様子が表現されている。また、春が来たことの活気と、作者の言外の喜びも感じられる。生き生きとした一首である。

大平尚拓
年越しの屋根に響くは雨太鼓雪は降らずに
除夜の鐘鳴る

【選評】

大晦日の年越しの晩に雨の降る音が、太鼓のごとく聞こえてくるが、雪は降らないで除夜の鐘の音が鳴っている。作者の新年を迎える心構えと、この一年の出来事を静かに振り返っている情景が見えるようである。

芽生
流れゆく澄みたる水の凍りつつ花模様
なし淡く染まりぬ

【選評】

近くを流れている川の淀みなど、流れの緩やかなところが凍りつつ花模様をなし、淡淡と染まってい

◇佳作◇

芽生
晴れ姿の節句祝いに桃の花束の間の笑
みも苦しいと泣く
晴れの日のお振る舞いにと祝い酒歳重
ねてもなお可愛いらし

大平尚拓
買い物に「早く選べとおばあさん」孫
の願いは一緒にいたい



俳句

小松温美選

◇入選◇

香をたどり行き着く先は山の春 芽 生

【選評】 空気の中に気持ちの良い香りを

感じ出かけた。草が萌え、道辺の花が咲き始め、行き着いた山も春の気配に包まれて、幸せな気分になった。

つばめ来る俺の帰りを待ちきれず 齋藤照雄

【選評】

燕が飛来してきた。空中を翻り、地上すれすれに飛ぶ姿に魅了され、
“待ちきれず”という措辞が口をついて出たと思われる。

薄氷の隠す花びら風なごり 芽 生

【選評】

薄氷を見つめていると、閉じ込められた花びらに気づいた。その変わらない可憐さに感動を覚えた句。

◇佳作◇

齋藤照雄

久しぶりの晴れ間雪国大事にし
雪だより高い山から足速に
春や春心ウキウキ身は軽し
寮元氣三晩続けて盆踊り
知事杯を目指し競いて菊花展

芽 生

早春や日の出とともに動く母
密求め花粉まといて春運ぶ
たわむれて毛玉ころがす猫の子よ
綿雪の重さを知らぬ木木の花
草の間にピンと張られた蜘蛛の糸



川 柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《天位》

千

歩

夢開くガイドブックと旅に出る

【選 評】

冬来たりなば春遠からじ、の詩があります。暖かくなったら旅をしたい、とガイドブックを手にする。この句の秀逸は上五の措辞です。「夢開く」にワクワクする思いが込められ、無駄な言葉のない素晴らしい作品です。

《地位》

大 平 尚 拓

手を繋ぐ影の中だけ月明かり

【選 評】

中七の措辞が意味深な句にしています。その日は煌々と月光の美しい夜。手を繋ぐも明かりを避けてということでしょうか。ロマンティックな作品です。

《人位》

長 沼 蓮 花

待ちわびた帰省叶わぬインフルエンザ

【選 評】

今冬は県内にインフルエンザが蔓延しました。伝染力の強い病気なので、帰省できなかったのですね。楽しみにしていた帰省も残念だったことでしょう。

◇ 佳 作 ◇

齋 藤 照 雄

老眼鏡を掛けて母夜なべする
蝶を愛すこの花とやら枯れるまで
妖しげな灯りさぎめく国分町

長 沼 蓮 花

新年をひっそり迎えし一人酒
我が子より四足歩行の子を愛でて
月一のカットサロンへお犬様
夫見るトカト力止まらぬ不思議だな

大 平 尚 拓

いましたな服に紛れて臭い虫
大木も虫にやられて枯れました



千

歩

満月に照らされ心丸くなり
入れ歯飛ぶ茶飲み話の武勇伝
路の臺ここに居るぞと背伸びする

2024 合同文化祭

— 令和6年11月22日 —



『憧れのハワイ航路』



寸劇『カチカチ山』



『三味線演奏』

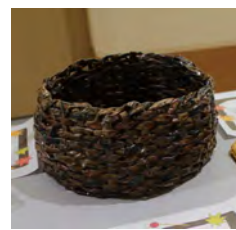
歌や踊り、マジックショー、寸劇、三味線演奏などを披露しました。

【展示作品】



《革細工》

カービングという技法を使って模様をつけました
作業療法の見本として制作



《籠》

新聞広告を丸めてニスで塗装し編みました



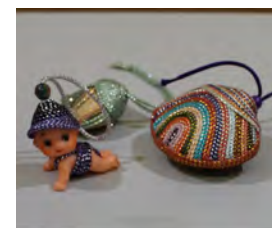
《しおり》

たこ糸をマクラメ編みし制作



《ティッシュケース》

和紙を貼って制作



還暦を迎えました

看護師 佐藤 智子

平成三十一年より新生園にお世話になり、もうすぐ丸六年になろうとしています。以前勤務していた職場とは全く違う環境に戸惑うばかりで、周りの方々に多大なるご迷惑をお掛けしました。本当に申し訳なく思っております。慣れない環境と業務に毎日が緊張の連続でした。そんな環境での心の拠り所は入所者さんとの何気ない会話でした。スタッフとの会話も緊張していましたが、入所者さんとの会話は心が和み、次第に素の自分を出すことができるようになっていきました。入所者さんに救われたことを忘れることはできません。大変感謝しています。本当にありがとうございます。

ございました。まだまだ先輩方に教えて頂きながらの業務ですが、もう少し頑張りたいと思います。入所者さん、先輩方、どうぞよろしくお願いいたします。

若い頃は還暦と聞くと、おじいさん、おばあさんというイメージがありました。やはり若い人達からすれば私ももれなく「おばあさん」なんだと思います。子供達には、おばあさんを労ってもらいたいと思います。

入職した時にも新生誌に書かせて頂いたのですが、夜の散歩は、今も時々ではありますが続いています。自分に物凄く甘い私は、暑い時期の散歩は「自主規制」し、涼しくなってから再開しています。定期受診毎の主治医の診察では減ることのない体重に対し、「あまり太らないように」と、呪文のように毎回同じ注意を受けます。体重を減らすことは私にとっては至難の業です。そのため、せめて現状維持のため散歩をしています。しかし、

なかなか重い腰を上げるのも億劫な時もあります。そんな時は、家を出る用事を作ります。「スーパーで〇〇を買う」、「ドラッグストアで△△を買う」、「ホームセンターで××を買う」と決めて出かけます。先日、買って後悔したものがありません。探していた、長い柄のついた掃除用具を見つけたので、つい買い買ってしまった。帰り道、自分の姿を客観的に見るとかなり怪しげです。リュックを背負い、蛍光色のタスキ、首から提げる電灯、一メートル程の長い棒を持って国道沿いを歩く自分。もう、恥ずかしさしかありませんでした。自分の大きい体に沿わせて縦に持ち、目立たないように歩くのが精一杯でした。これからは買う物は慎重に選ぼうと思います。寒い時期は天気の悪い日も多くなります。飽きっぽい私でも続けられる室内でできる運動を模索中です。



「人権のつどい」に参加してみて感じたこと

事務助手 遊佐 三枝子

令和六年十二月一日、登米市の水の里ホールで開かれた、元日本テレビアナウンサーの藪本雅子さんの講演を拝聴いたしました。あまり今まで関心が薄く興味がありませんでしたが、縁があり新生園というハンセン病療養施設に勤める機会に恵まれたことで、ハンセン病や人権侵害についてわずかながらも関心が湧き上がってきました。

最初は講演会と聞くと難しく、自分には理解できないのではないかと心配しておりましたが、そこはやはりアナウンサーという職業を経た経験上なのか、とても聞き取りやすい声と解りやすく、親しみが持てて、身近に感

じられました。

ハンセン病についても詳しく調査されていて、独自の力で何度も取材を重ね、聞き取りをして番組を作成しようとしたこと、上司や仲間からの無理解と偏見を受けながらも今に至り、ハンセン病と人権について語る立場の人間に成られたことに、深く感銘を受けました。中でも若い頃にハンセン病と診断され療養所に入所された方の実体験は、聴いている自分もとても辛く胸が痛くなりました。

その他にも『らい病』の名前の由来、ハンセン病と隔離政策、優生保護法、無らい県運動、日本の仏教の經典の中で女性蔑視に寄る差別の過ちを認めているながらも、未だに残る根強い偏見と国辱を公にしてはいけない風潮などについて、たくさんの書籍の字面だけでは理解できない思いや、生々しい歴史とハンセン病と診断され入所した方々の想いの一片が伝わってくるようでした。

出張

栄 養 班 だ よ り

1月1日～3日 お正月



1日と3日の昼食に雑煮（お餅）の提供を行いました。

しんせい茶房活動報告（1月9日～10日）



楓会の正月行事に併せてしんせい茶房を開催しました。
たこ焼き、大福、プリン、飲み物をお配りしました。

歴史の中に埋もれていくハンセン病、国の政策の過ち、自由を奪われ、未だに癒えることのない魂に刻まれた傷跡。人権とは何か？自由とは何か？繰り返される差別と、深まることのない障害を持つ他人への無理解。世界は未来を目指し、発展をし、平和を願いながらも、この小さな島国、日本の中でさえ穏やかな明日を夢見ることさえ許されなかった人たちの人生を今一度振り返り、ハンセン病のみならず、障害を持つ者、持たざる者に関わらず、思い遣りと優しさを持つて接することの出来る世界になって行けることを心から祈りたいと思いました。



四コマまんが

作・太田 凜

